

# 大分県

定数：4名

立候補者数：5名



氏名 市川 泰朗

都道府県士会 大分県

年齢 51

勤務先名称 藤華医療技術専門学校



氏名 竹村 仁

都道府県士会 大分県

年齢 51

勤務先名称 臼杵市医師会立コスモス病院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成13年～16年度 (社)大分県理学療法士協会 学術局 教育研修部 部長  
 平成17年～23年度 (社)大分県理学療法士協会 学術局 教育研修部 部長  
 平成23年度～現在 (公社)日本理学療法士協会 代議員  
 平成24年～27年度 (公社)大分県理学療法士協会 理事 学術局長  
 平成28年～29年度 (公社)大分県理学療法士協会 理事 事務局長  
 平成30年～現在 (公社)大分県理学療法士協会 代表理事(会長)  
 令和元年～2年度 (公社)日本理学療法士協会 協会・学会連携強化検討小委員会 委員  
 令和3年～現在 (公社)日本理学療法士協会 倫理委員会 委員

大分県理学療法士協会の会長を現在3期6年務めております。感染症の蔓延以後、様々な場面でオンラインによるコミュニケーションが浸透しました。移動時間の短縮、会議や研修会へのアプローチの良さはオンラインの大きなメリットですが、画面越しだと人との温かみや感情、雰囲気、興味、目線などリアルな心の距離感の取りにくさを感じます。対面で直接会って話を聞く。多世代の繋がりを増やす。コロナ前に戻していくのは大きなエネルギーを必要としますが、20代、30代が会員全体の75%を占める中、当該世代の考えを協会・士会の運営に活かし、相互に納得感の得られる組織にしていくことは組織運営における重要課題の1つです。県や市町村と連携し、士会事業を行政からの委託事業としてもっと展開したい。政策活動にも力を入れたい。マンパワーは確保できるのか。

そのためにも私は若い会員の皆さんが日々の臨床と同じように協会活動の中にも成長とやりがいを感じてサステナブルに活躍してくれる協会組織にしていきたいと思っています。未来への大きな懸念を払しょくするために、引き続き協会の進むべき方向性の議論に参画させてください。課題解決に向け道筋を立てられるよう精一杯取り組んでいく所存です。どうぞよろしく申し上げます。

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

(公社)日本理学療法士協会  
 平成24年～現在まで代議員  
 (公社)大分県理学療法士協会  
 平成19～29年 理事(社会局長、職能局長)  
 平成29～現在 地域包括ケア推進委員会 委員長

令和6年度の診療報酬改定で、疾患別リハビリテーション料に急性期(早期)加算が拡充されることは、コロナ禍でしっかりと感染予防を行い、理学療法を実践してきたからに他ならない。また、疾患別リハビリテーション料について、実施者を明確化する方向は、十数年前の理学療法料のように算定できると考えることができる反面、作業療法士の方が得意という理由で理学療法士の方が診療報酬を低く設定されることになるかも知れない。介護報酬改定では、訪問看護ステーションからの訪問リハビリテーションについて、また減算である。やはり今後より一層、理学療法のエビデンスの構築が必要であろう。

一方、大分県内では全市町村で短期集中予防サービス(C型事業)が整備され、通所または訪問サービスで結果を残している理学療法士や、包括支援センターに配属され活躍している理学療法士も現れている。私たち理学療法士は、今後さらに健康寿命の延伸に、また地域ケア会議の質の向上に貢献をしていく必要がある。加えて、生活支援体制整備事業や在宅医療・介護連携推進事業そして、地域共生社会の実現に向けて今何をなすべきなのかと課題を提示されている。

全国で先行する大分県の取り組みに、どれだけ私たち理学療法士が寄与できたかと考えると、まだまだエビデンスの積み上げは不十分であり、改革が必要である。この改革の実現のために、私は県内会員との密な情報交換を通じて日本理学療法士協会と大分県理学療法士協会とのパイプ役となり、代議員としての役割を果たしていきたい。どうぞ宜しくお願いいたします。



氏名 藤原 愛作

都道府県士会 大分県

年齢 45

勤務先名称 佐藤第一病院



氏名 高橋 隆一

都道府県士会 大分県

年齢 51

勤務先名称 中村病院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私は大分県士会の理事として、学術関係並びに臨床実習関係に関する業務を担当してきました。約2年前に新生涯学習システムが始まりましたが、ポイント制度や症例検討などについて、士会の会員の皆様から、多くの改善要望が寄せられています。また、臨床実習指導者育成の件についても、講習会が開催され5年が経過しましたが、受講後の育成ビジョンは十分に示されていない現状です。学生教育～新人教育は連続性が求められるものであり、協会としても育成のビジョンを示す必要があります。これらの課題に対して、代議員として日本協会に対し回答や改善案を求めたいと考えています。私が代議員になった際には、大分士会の会員の皆様からの意見をより集めるため、意見交換会やGoogleフォームを使用したアンケートなどを実施し、大分士会の会員の声を届けられるようにしたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 活動歴

平成24年5月～平成28年5月 大分県理学療法士協会 ブロック局 県北ブロック長  
平成28年5月～現在 大分県理学療法士協会 理事 学術担当  
令和2年5月～現在 大分県理学療法士協会 臨床実習指導者育成委員会 委員長  
令和3年6月～令和4年6月 指定規則検証委員会 臨床実習前後の評価モデル構築作業部会  
令和3年11月～現在 日本神経理学療法学会 地方ブロック委員会 部長  
令和4年～現在 日本神経理学療法学会 評議員

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

#### 【協会・士会役員歴】

平成10年～16年 (社)大分県理学療法士協会 学術局 教育研修部 部長  
平成19年～22年 (社)大分県理学療法士協会 事務局 スポーツ事業部 部長  
平成23年 (公社)大分県理学療法士協会 事務局 スポーツ事業部 部長  
平成24年～27年 (公社)大分県理学療法士協会 理事 事業局長  
平成28年～29年 (公社)大分県理学療法士協会 理事 社会局長  
平成30年～ (公社)大分県理学療法士協会 副会長  
平成30年～ (公社)日本理学療法士協会 代議員  
令和4年～ (公社)大分県理学療法士協会 災害リハ対策委員会 委員長  
第55回日本理学療法学会学術研修大会2020 in おおいた 準備委員長

#### 【立候補趣旨】

日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました高橋隆一です。代議員として3期6年努めさせて頂きましたが今回も大分県理学療法士協会の意見を伝えるために立候補致します。各都道府県士会では様々な地域課題を持ちつつ県民の医療・保健・福祉の増進に関わり活動されている事と思います。日々変化する情勢の中で日本理学療法士協会と各都道府県士会との間で横の繋がりが顔の見える関係づくりとして意見交換も行われ、理学療法士としての活動や各士会の様々な活動の取り組みの情報共有が図られつつあります。県士会運営をより一層の活性化して行くためには協会と士会の連携は欠かせられません。協会と県士会との進むべき方向性を確認し、協会組織全体として直面している課題に対し会員の連携強化・協同する事が必要です。今後も理学療法士の職域や地位の向上を図るためによりよい体制づくりが協同してできるようにその橋渡し役として、広い視野と多角的な視点で物事を捉え役割を果たしていきたいと思っています。ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。



氏名 渡邊 亜紀

都道府県士会 大分県

年齢 44

勤務先名称 大分リハビリテーション病院

#### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私は2018年より大分県理学療法士協会の理事として活動し、2020年からは日本理学療法士協会の代議員として活動してまいりました。代議員となったこの4年間は日本理学療法士協会理事会や総会、女性代議員の集いなどに参加し活動してまいりました。大分県理学療法士協会では社会局長として、広報部、公益事業部、スポーツ事業部の事業を中心に尽力してまいりました。加えて、大分県が目指す「健康寿命日本一」のおうえん企業に大分県理学療法士協会は登録しており、県民の健康寿命日本一に向けて、会員の方と県内各地でのイベントへ参加、県民の運動習慣のきっかけづくりのための体力測定をしたり、依頼のあった企業に出向き、働き盛りの方々に健康や運動の重要性を伝える活動に力を入れてきました。その活動を通じ県民の健康寿命延伸に向けた公益事業（スポーツ、予防、産業など）にかかわる理学療法士への期待を実感したとともに、人材の育成など取り組むべき課題はまだあると考えております。

今後、社会に貢献できる理学療法士の育成と理学療法士が活躍できる機会を広げていくためには県士会と日本理学療法士協会が両輪となって活動していくことが不可欠であり、代議員となった暁にはその活動の一翼を担っていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。